

令和5年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 白銀 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、3年生を対象として、「教科（国語、数学、英語）に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、数学、英語）

教科に関する調査（国語、数学、英語）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※本校3年生は、単学級ですので、個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査（国語、数学、英語）の結果

本年度の結果	国語		数学		英語	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	10.3	69	7.3	49	6.8	40
全国	10.5	70	7.6	51	7.7	45

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	全体的に全国平均正答率を下回っている。特に、「書くこと・読むこと」の無回答者がいることと、正答率の数値から情報を読み取り、自分の考えをまとめることが難しい生徒が多いことがわかる。
	よくできた問題	言葉の特徴や使い方に関する問題
	努力が必要な問題	情報を読み取り、読み取った内容から適切なものを選び、まとめる問題
数学	全体的な傾向や特徴など	全体的に全国平均正答率を下回っている。特に、図形の証明や数学的な表現を用いて説明する問題では、無回答率が高かった。
	よくできた問題	度数分布表に表された資料から、問われた数値を答える問題
	努力が必要な問題	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を筋道を立てて説明する問題
英語	全体的な傾向や特徴など	全体的に全国平均正答率を下回っている。特に「話すこと」の問題では全般的に無回答率が高かった。
	よくできた問題	対話を聞き取ったり読み取ったりして、内容に適する絵や英文を選択する問題
	努力が必要な問題	まとまりのある長さの英文を聞いたり読んだりして、内容を適切にまとめたり自分の考えを英文で述べたりする問題

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析
①「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の質問は平均を上回っており、キャリア教育を軸とし、将来の夢や目標をもたせ、それらを行動に結びつけさせることが必要である。
②「朝食を必ず取る」、「朝決まった時間に起きる」と答えた生徒が全国を下回った。
③「自分には良いところがある」、「先生は、あなたのよいところを認めてくれている」「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか」と答えた生徒が全国平均を大きく上回った。反面、「将来の夢や目標を持っていますか」「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦してる」、「最後までやり遂げるようにしている」と回答した生徒が全国平均を下回った。
④「自分と違う意見について考えるのは楽しい」、「友達と協力するのは楽しい」と回答した生徒が全国平均を下回った。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- ・授業においては教え合いや学び合いを継続し、自分の考えを深めたり、広げたりできるように工夫する。さらに対人スキルアップ指導を積極的・継続的に行っていく。
- ・ICT機器を活用し、ドリルアプリを朝自習や授業などに利用することで、個に応じた課題解決の取組を継続していく。
- ・諸行事においては、生徒が企画や運営に携わり、主体的に取り組む態度の育成を継続していく。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・基本的な生活習慣について、学習への啓発を行う。
- ・予習の取組や単元末テスト、小テスト等を活用し、自ら課題を見つけ主体的に学習する習慣を身に付けていく。